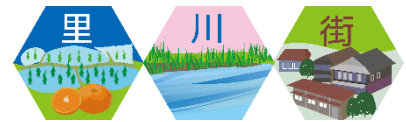


東富水地区



【地区の自然環境概要】

東富水地区は、里、川及び街の要素を持つ地区です。

西側を小田急小田原線が走り、蛭田駅、富水駅の2駅があります。駅周辺を中心に住宅地を主とした市街地が広がり、市街地や住宅地を好む動植物の生育・生息の場となっています。

南西部及び富水駅より北側は水田が多く、田園環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

東側には酒匂川、南西側には狩川、北西側には仙了川が流れており、周辺は河川や河川敷などの水辺環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

河川や水田など水辺環境が特徴的であり、このような環境を利用する動植物の生育・生息の場となっています。良好な田園環境は、その環境のみで生育・生息できる種の貴重なすみかでもあり、大切に守っていききたい環境です。

- 東部には河川、草場が広がる河川環境があり、ネコヤナギやツルヨシ、ミズ、チガヤ、エビモ等の水辺を好む植物が生育しています。カイツブリやヨシガモ、セッカ、ホオジロ等の鳥類、ニホンスッポン等の爬虫類、コヤマトンボやマツムシ、コオイムシ（絶滅危惧種）等の昆虫類などが見られ、水辺や草地環境を特徴づける種が生息しています。¹また、市の鳥であるコアジサシ（絶滅危惧種）などの河口に生息する希少な動物も確認されています。²
- 北部や南部等に広がる水田地帯では、タゲリ（絶滅危惧種）やタシギ、ハマシギ（絶滅危惧種）等の鳥類、アキアカネやナツアカネ等の昆虫類など、良好な水田環境を特徴づける種が確認されています。³
- 魚類では、酒匂川と狩川合流部で、ボウズハゼやシマヨシノボリなどの河川中下流域でよく見られる種が生息しています。仙了川では緩い流れを好むミナメダカ（絶滅危惧種）や、オイカワやアユなどの河川中流域でよく見られる種が生息しています。また、山ヶ村用水路は下流で酒匂川とつながっているため、遡上期には遡上するボウズハゼや、オイカワなどの河川中下流域でよく見られる種が生息しています。⁴

¹ 参考：平成30年（2018年）～平成31年（2019年）に実施した現地調査結果

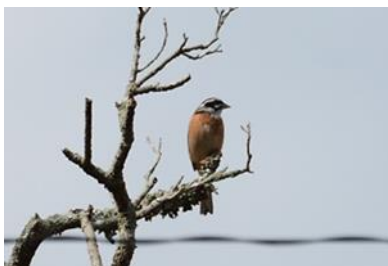
² 参考：平成29年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

³ 参考：平成29年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

⁴ 参考：平成30年（2018年）～平成31年（2019年）に実施した現地調査結果



エビモ

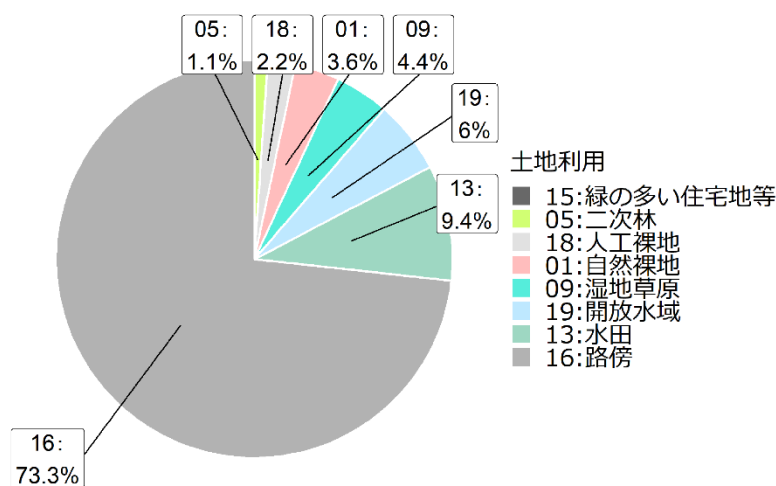


ホオジロ

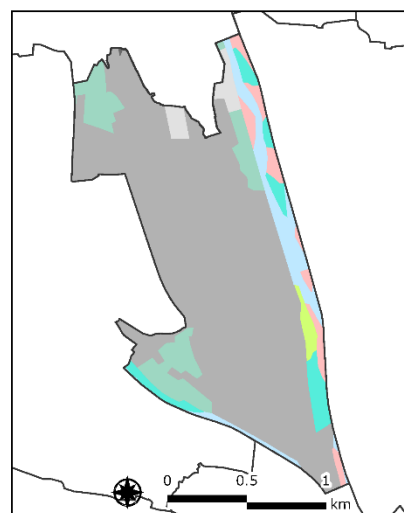


ナツアカネ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、路傍が約 7 割を占めますが、北部や南東部には水田が広がり、酒匂川・狩川周辺は、開放水域や湿地草原、自然裸地等の水辺環境が見られ、土地利用の約 1 割を占めています。⁵



東富水地区の土地利用割合



東富水地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

身近にある緑や水源など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **神社・寺院**：神社や寺院が複数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。
- **その他の資源**：足柄平野では、平野の上流部や箱根火山外輪山から涵養された河川水や灌漑用水、地下水などが、平野中・下流部に分布する難透水層によって被圧され、大井町南部から小田原市北部を結ぶ線と、国道 271 号(小田原厚木道路)とで挟まれる範囲に自噴域を形成しています。⁶本地区における自噴井戸は 27 井（堀之内、中曽根、蓮正寺、飯田岡の合計）確認されており、地下水が地表面に湧出する様子が地域の豊かな水環境をかもしだしています。⁷

⁵ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

⁶ 出典：足柄平野の自噴井湧水について（宮下雄次）

⁷ 出典：酒匂川右岸地域の自噴井戸（日々野英俊ら）

【地区で見られる特徴的な自然】

鳥獣保護区や巨樹・巨木林に選定された樹木など、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

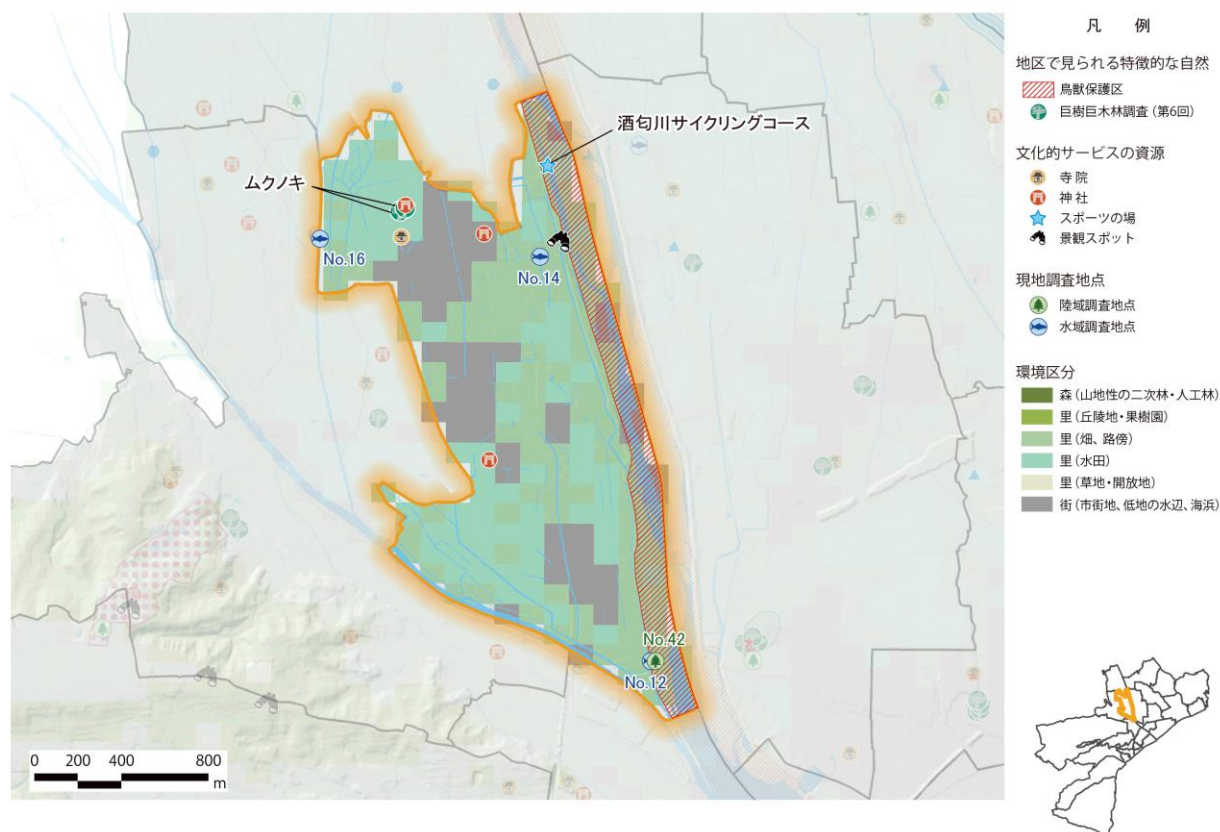
- **鳥獣保護区**：「酒匂川」は、希少鳥獣生息地（環境省レッドリストまたは神奈川県レッドデータ生物調査報告書において絶滅危惧が高いランクにある鳥獣の生息地であって、これらの鳥獣の保護上必要な地域）として、鳥獣の捕獲を禁止し、その生息環境を適切に保全しようとする区域として、神奈川県鳥獣保護区に指定されています。
- **巨樹・巨木林**：「若宮八幡神社」に生育するムクノキは、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査⁸で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
若宮八幡神社	ムクノキ	20	365	平成12年（2000年）
	ムクノキ	15	380	平成12年（2000年）

※出典：第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成13年（2001年））

- **重要地点**：平成29年（2017年）～30年（2018年）に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、現地調査結果を踏まえ重要種が多いと評価された現地調査地点「陸域 No.42（酒匂川下流部（飯泉橋付近））」を将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。



東富水地区の自然環境マップ

⁸ 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査